

新型コロナ5類移行後2度目の「ハロウィーン」 参加意向は引き続き若年層で高いものの 「子どものため」のファミリーイベントと二極化？

2024年「ハロウィーン」への参加意向・賛否の理由等を調査（2024年9月実施）

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘、以下リクルート）の外食市場に関する調査・研究機関『ホットペッパーグルメ外食総研』（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、2024年の「ハロウィーン」への参加意向、賛否等に関する意識についてのアンケートを実施しましたので、その結果を発表いたします。

<要約>

POINT1 今年の「ハロウィーン」行事参加予定者は16.1%、前年参加実績を0.9ポイント上回る ・・・P3-4

▶2024年の「ハロウィーン」行事参加予定者は3圏域計で16.1%。前年の参加実績15.2%と比べると0.9ポイント上回った。行事への参加意向は順調に回復している。参加予定率は男女とも20代が最も高い（20代男性25.3%、20代女性21.4%）。

POINT2 最も楽しみな過ごし方、「子どもにお菓子をあげたい」ランクイン ・・・P4-6

▶「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手、1位「友人・知人」9.0%で2年連続して最多。2位「夫婦二人で」8.4%、3位「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」8.1%。

▶「ハロウィーン」の過ごし方の希望、1位「家で過ごしたい」18.2%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」11.4%、3位「外食を楽しみたい」7.5%、4位「かぼちゃ料理を食べたい」7.4%、5位「飲酒を楽しみたい」7.1%。「かぼちゃ料理を食べたい」が前年7位からトップ5入り。

▶最も楽しみにしている過ごし方は、1位「家で過ごしたい」26.1%、2位「ハロウィーンスイーツを食べたい」12.9%、3位「外食を楽しみたい」8.3%、4位「飲酒を楽しみたい」5.7%、5位には「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」が5.2%で食い込んだ。

POINT3 「ハロウィーン」肯定的な理由、30～60代女性「子どものためのお祭りとして良い」 「ハロウィーン」否定的な理由、「感染拡大危惧」は2年連続で減少 ・・・P7-8

▶「ハロウィーン」に肯定的な理由、1位「本来の意味と違って日本風を楽しめば良い」32.6%、2位「子どものためのお祭りとして良い」28.5%、3位「経済効果がある」26.7%。3年連続して同順位。30～60代女性で「子どものためのお祭りとして良い」が他の性年代に比べ顕著に高かった。

▶「ハロウィーン」に否定的な理由、1位「自分には関係がないように思う」49.4%、2位「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」35.2%、3位「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」23.9%と2年連続同順位。「感染症の流行につながりそう」は10.4%（8位）。

本件に関する
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査（2024年8月度）
◎調査方法 インターネットによる調査

首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査（外食市場調査）の中で、ハロウィーンに関連した飲食・パーティー・イベントの参加状況や参加意向、今年のハロウィーンは誰とどのように過ごしたいか、ハロウィーンに対する考え方などを聴取。

- ◎調査対象 首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）、関西圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県）、東海圏（愛知県、岐阜県、三重県）に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
②調査時期 2024年7月17日（水）～2024年8月6日（火）
③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
⑤配信数 503,814 件
⑥回収数 28,272 件
⑦本調査対象者数 11,366 件

- ◆本調査対象者の割付について
- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付を行って回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分（首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分）＝250セルについて、令和4年人口推計（総務省）に基づき割付を行った。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏3,200s、関西圏1,600s、東海圏1,600s、合計6,400sとした。

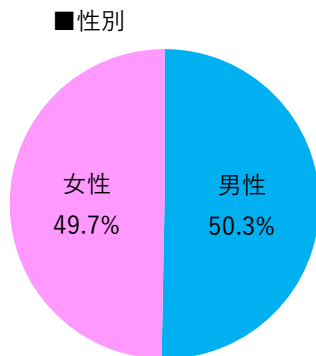
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
②調査期間 2024年9月2日（月）～2024年9月13日（金）
③配信数 10,528 件
④回収数 8,202 件 （回収率 77.9 %）
⑤有効回答数 8,124 件 （首都圏 4,148 件、関西圏 2,129 件、東海圏 1,847 件）

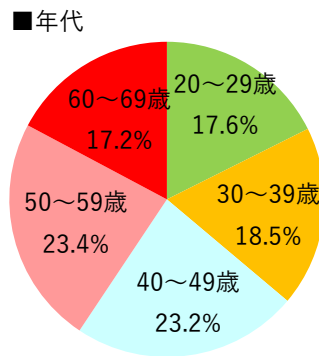
※回収された票のうち、自由回答コメントから、趣旨に合わないと思われる票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
- ・本調査結果は、令和4年人口推計（総務省）における割付（性年代別10区分×地域別25区分＝250セル）別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計を行っている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 8,124 件（首都圏 4,717 件、関西圏 2,185 件、東海圏 1,222 件）

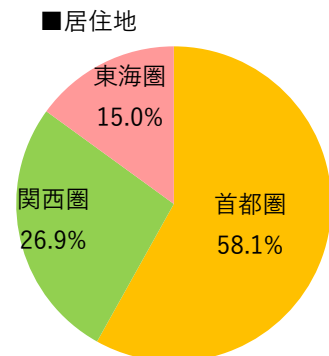
◆回答者プロフィール（ウェイトバック後）



n=8,124



n=8,124



n=8,124

1. 2024年「ハロウィーン」行事参加予定者は16.1%、前年参加実績を0.9ポイント上回る

今年も「ハロウィーン」の季節がやってくる。2024年の行事参加予定については3圏域計で16.1%と、前年の参加実績15.2%（2024年に調査）と比べると0.9ポイント上回る結果となっている。前年の参加実績は3年連続で増加しており、今年もさらに増加する可能性がありそうだ。参加予定率が最も高かったのは男女とも20代で、20代男性では25.3%、20代女性では21.4%が参加予定と回答している。前年の参加実績と比べると、30代女性（+2.4ポイント）や50代男性（+1.6ポイント）等で参加予定が前年実績より増加となっており、逆に30代男性（-1.2ポイント）と40代女性（-0.6ポイント）では少なくなっている。

ハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベントについて、今年の参加予定（全体／単一回答）



※「参加予定」の各データは、当年度調査で聴取した、当年度の「参加したい割合」を示す。

※「前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、前年度の参加実績を示す。

※「今年の参加予定 - 前年の参加実績」の各データは、当年度調査で聴取した、「当年度の『参加したい』割合」 - 「前年度の参加実績」で算出。

※「参加の予定がある」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」で、いずれかの飲食、パーティー、イベントに「参加したい」と回答した人を集計

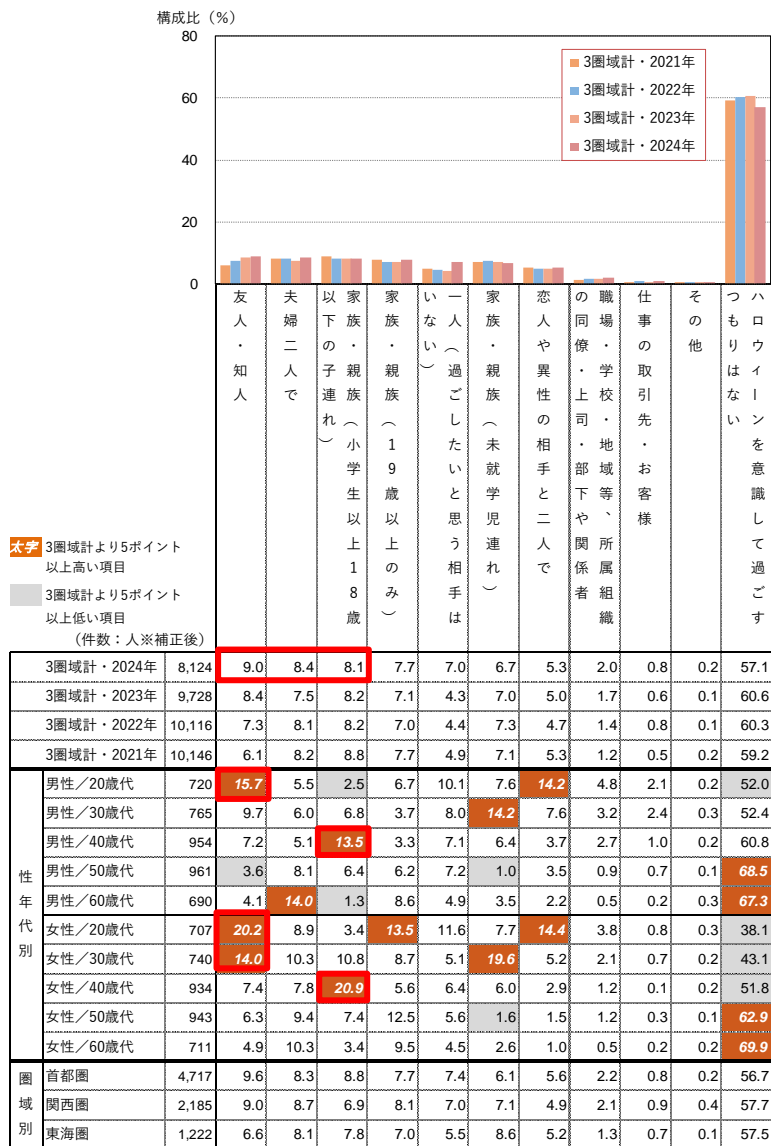
※「参加の予定はない」：『今年参加したいハロウィーンに関連した飲食、パーティー、イベント』の「自分が企画・呼びかけしようと思っているもの」「企画はしないが参加しようと思っているもの」とともに「参加

の予定はない」と回答した人を集計

2. 2024年の「ハロウィーン」を一緒に過ごしたい相手は「友人・知人」が2年連続で最多に

2024年の「ハロウィーン」を誰と過ごしたいか聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外は僅差だが、1位は「友人・知人」で9.0%と、2年連続して最多となった。「友人・知人」は、2021年の5位から、2022年は3位、2023年は1位と順位を上げ、家族中心の集まりであったコロナ禍中のハロウィーンから平時に戻ったことを感じさせる。2位は「夫婦二人で」で8.4%、3位は「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」が8.1%であった。性年代別では、20代の男女と30代女性では、一緒に過ごしたい相手として「友人・知人」が、40代男女では「家族・親族（小学生以上18歳以下の子連れ）」が他の性年代よりも多い。

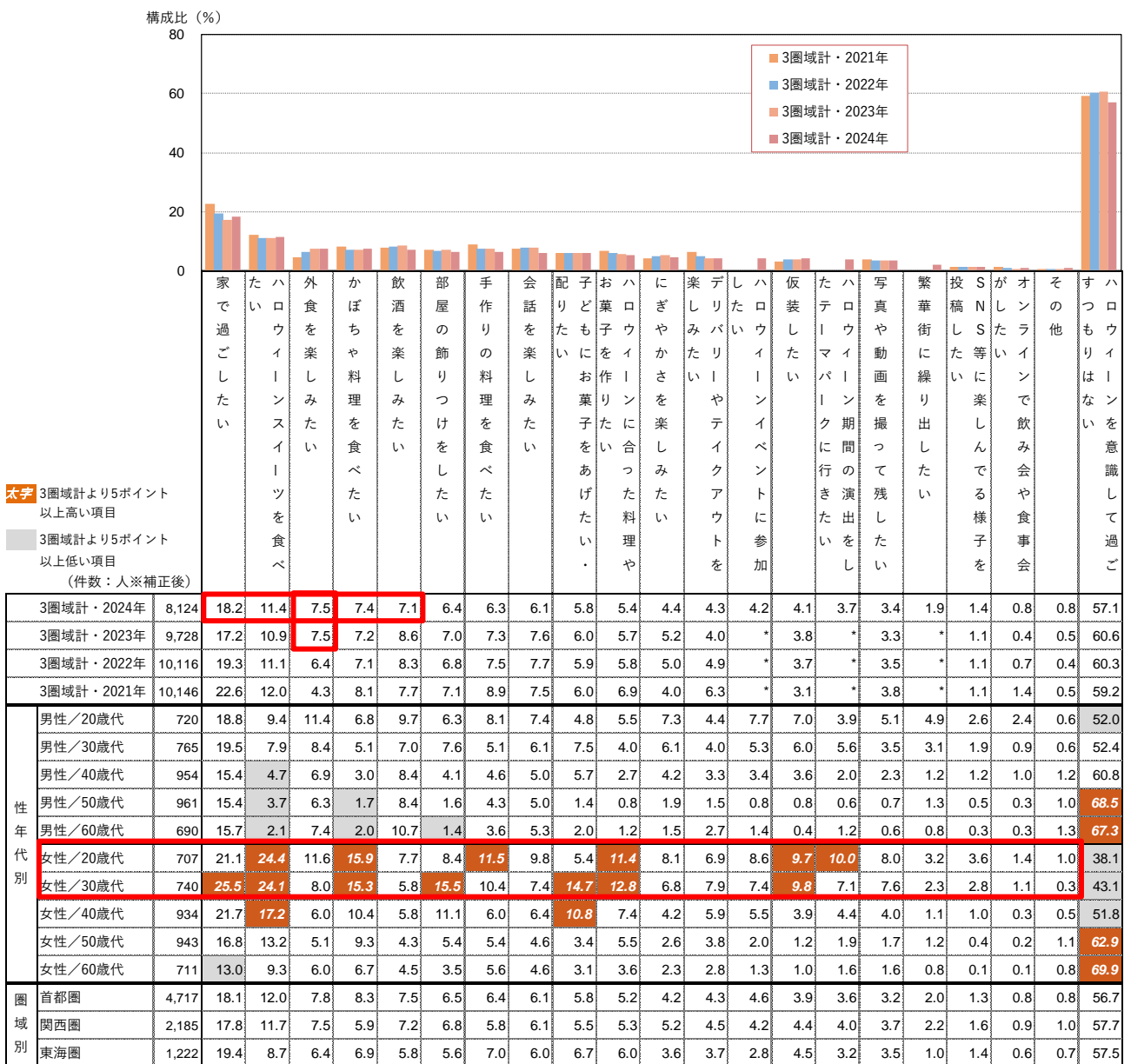
今年のハロウィーンは誰と過ごしたいか（全体／複数回答）



3. 2024年の「ハロウィーン」、過ごし方の希望では「かぼちゃ料理を食べたい」がトップ5入り

2024年の「ハロウィーン」の過ごし方の希望を聞いた。「ハロウィーンを意識して過ごすつもりはない」以外でのトップ5は、1位は「家で過ごしたい」で18.2%、2位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で11.4%、3位は「外食を楽しみたい」で7.5%、4位は「かぼちゃ料理を食べたい」で7.4%、5位は「飲酒を楽しみたい」が7.1%。前年と比べて、トップ5からは「会話を楽しみたい」が圏外となり、「かぼちゃ料理を食べたい」がトップ5入りを果たした。「外食を楽しみたい」は順位こそ、前年の5位から3位に上がったが、回答割合は前年と同じであった。性年代別では、20・30代女性は他の性年代に比べ様々な過ごし方に積極的であり、楽しみにしている様子が見えてくる。

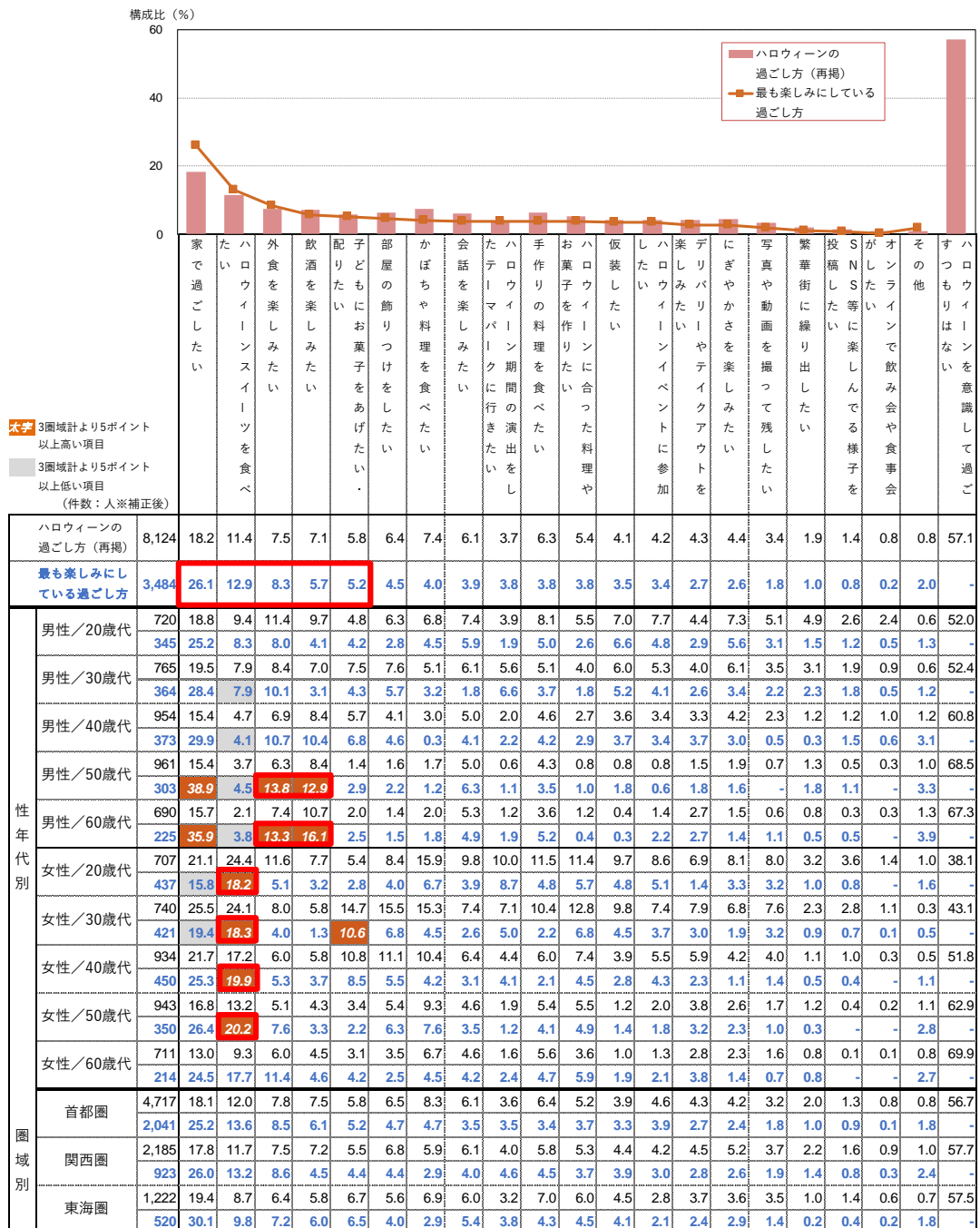
今年のハロウィーンはどのように過ごしたいか（全体／複数回答）



4. 最も楽しみにしている過ごし方では「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」がトップ5入り

前ページで希望する「ハロウィーン」の過ごし方があった人(3,484人)に、今年のハロウィーンで最も楽しみにしている過ごし方を聞いた。トップ5は、1位は「家で過ごしたい」で26.1%、2位は「ハロウィーンスイーツを食べたい」で12.9%、3位は「外食を楽しみたい」で8.3%、4位は「飲酒を楽しみたい」が5.7%、5位は「子どもにお菓子をあげたい・配りたい」が5.2%でトップ5の一角に食い込んだ。性年代別では、20~50代女性で「ハロウィーンスイーツを食べたい」、50・60代男性で「外食を楽しみたい」「飲酒を楽しみたい」の回答割合が他の性年代に比べ高くなっている。

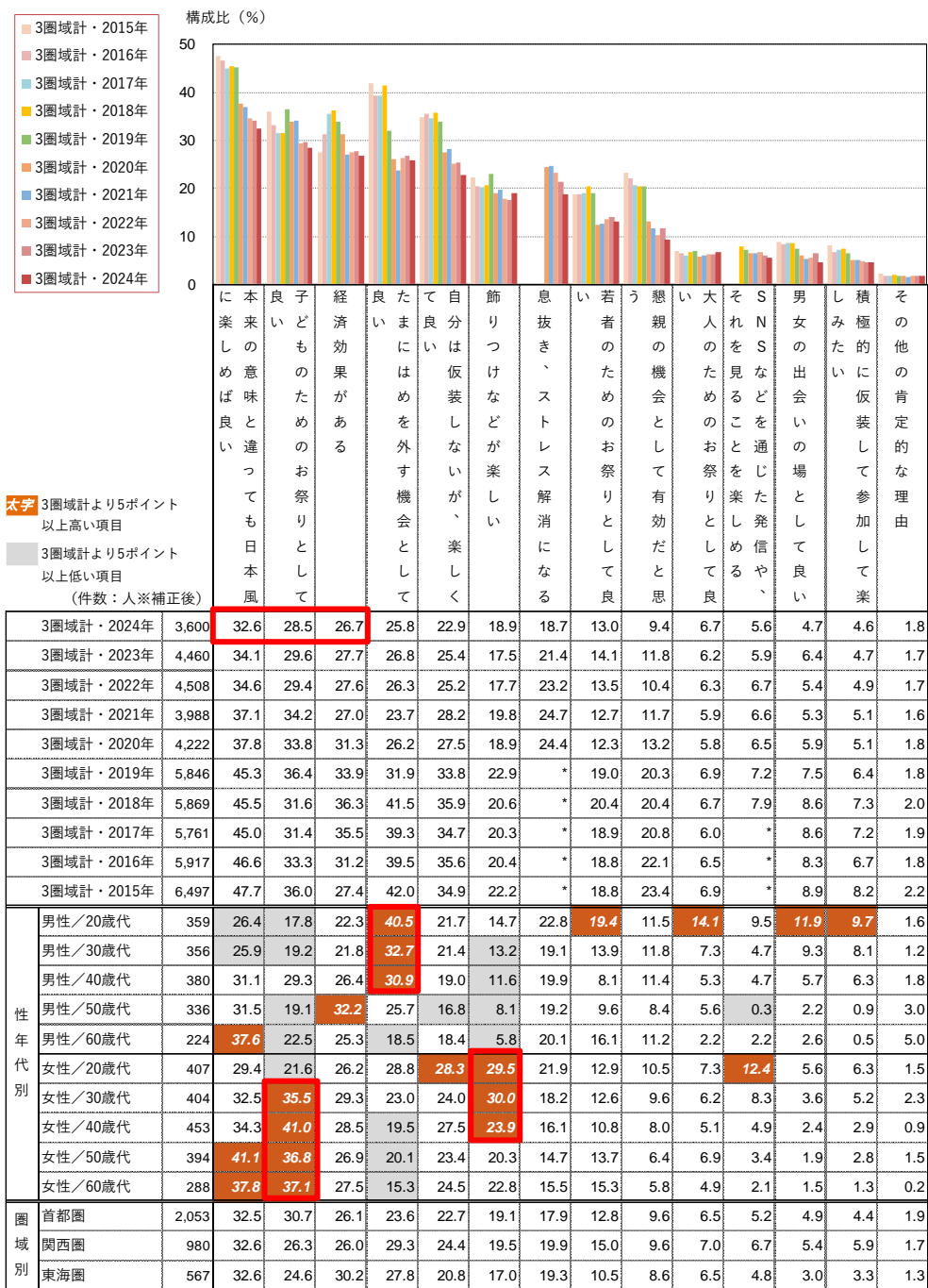
今年のハロウィーンで、最も楽しみにしている過ごし方（今年のハロウィーンをどのように過ごしたいかのいずれか回答者／単一回答）



5. 「ハロウィーン」に肯定的な理由、30～60代女性では「子どものための祭りとして良い」

「ハロウィーン」に肯定的な人が答えたその理由は、1位は「本来の意味と違って日本風を楽しめば良い」で32.6%、2位は「子どものための祭りとして良い」で28.5%、3位は「経済効果がある」で26.7%と3年連続して順位が同じであったが、回答割合は前年比では減少傾向であった。性年代別では、30～60代女性で「子どものための祭りとして良い」、20～40代男性で「たまにはめを外す機会として良い」、20～40代女性で「飾りつけなどが楽しい」の回答割合が、他の性年代よりも高かった。

「ハロウィーンについての考え」肯定的な理由（肯定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）



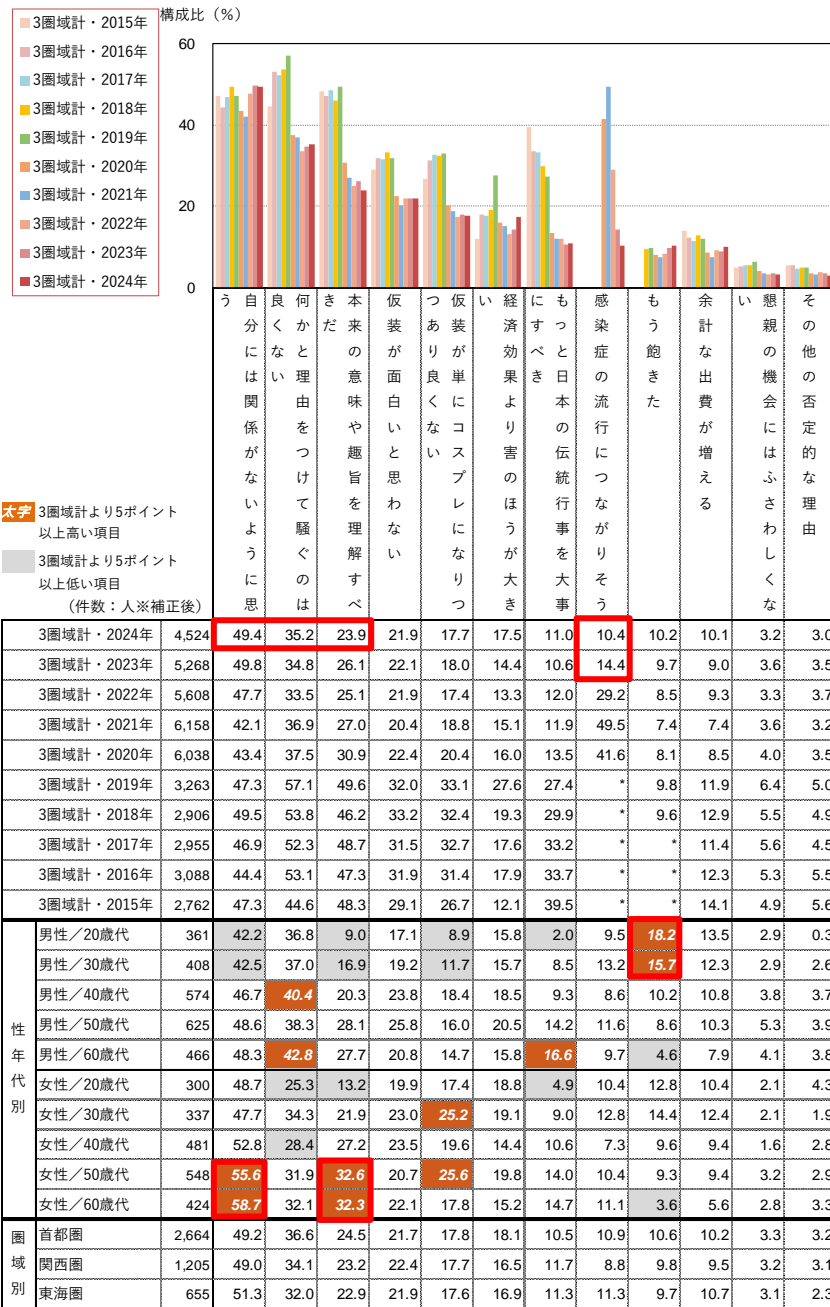
※3圏域計・2024年の多い順にソート *：該当項目なし

※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

6. 「ハロウィーン」に否定的な理由、「感染症拡大危惧」は10.4%で8位に後退

「ハロウィーン」に否定的な人が答えたその理由は、1位は「自分には関係がないように思う」で49.4%、2位は「何かと理由をつけて騒ぐのは良くない」で35.2%、3位は「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」が23.9%と2年連続の同順位。「感染症の流行につながりそう」は2年連続で減少し（前年14.4%→今年10.4%）、順位も前年の6位から8位に後退した。性年代別では、50・60代女性で「自分には関係がないように思う」「本来の意味や趣旨を理解すべきだ」、20・30代男性で「もう飽きた」の回答割合が、他の性年代と比べ高かった。

「ハロウィーンについての考え」否定的な理由（否定的な理由のいずれかに回答した人／複数回答）



※2020年以降は設問構成を変更しているため、経年比較は注意が必要

※「感染症の流行につながりそう」：前年は「新型コロナウイルス感染症の感染拡大につながりそう」

リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>